平成２１年度　特別研修　研究報告書

子どもの成長を支える教師と保護者の信頼関係づくりを目指して
―　教師と保護者、互いの思いを交流する通信を通して　―

生徒指導相談係
小嶋　幹夫（小学校教諭）
山﨑　一信（中学校教諭）

Ⅰ　主題設定の理由

学校を取り巻く環境は、少子化や情報化、国際化など、めざましく変化しており、保護者の価値観や児童・生徒の考え方は多様化している。このような状況の中で、学校が保護者から信頼されるためには、学校･家庭･地域社会が相互に連携していくことが重要である。学校と保護者との間をつなぐ手段として「通信」があげられる。「通信」は保護者にとって学校・学年を知るうえで身近なものであるが、情報は学校からの一方向になりがちである。そこで、「通信」の中に保護者の考えや意見を学校に届ける欄を作り、それに対して次の通信で返信したり懇談会で取り上げたりなどすれば、双方向の意志の疎通が図られ、教師と保護者との互いの思いを深め信頼関係づくりができると考え、本主題を設定した。

Ⅱ　研究のねらいと課題解決策

（1）ねらい

子どもの成長を支える教師と保護者の信頼関係づくりを育むために、教師と保護者、双方向の立場から学校を見つめ、互いの思いを交流する通信の有効性について実践を通して明らかにする。

（2）手立て

教師と保護者の思いが双方向になるように、「通信」にアンケートコーナーや返信コーナーを設け保護者の思いや考えをとらえ、それに対応していくことで交流をはかり、信頼関係を育んでいく。

（3）検証方法

通信の投げかけに対する保護者からの声やアンケート結果を分析したり、その内容に応える次号の通信や行事での対応等に対する保護者の反響を分析したりして、本実践が教師と保護者の信頼関係を築くのに有効であったかを検証する。

Ⅲ　実践１

１　実態

本校では学校行事や授業参観など保護者に児童の活動を見てもらう場だけではなく、親子ふれあい清掃や資源回収などのＰＴＡ活動やボランティア活動など、保護者に協力してもらう場面も多い。これに対し、保護者は協力的姿勢を示しており、学校に足を運ぶ機会や参加も多い。

また、学校だより、学年・学級通信などの通信による情報提供の機会も多く、学校を地域や保護者に開く取り組みを続けている。

しかしながら、学校側の意図が的確に保護者に伝わらなかったり、保護者の願いが学校側に

感じられなかったりすることなど、教師と保護者の思いのすれ違いが多々あるのが現状である。教師と保護者には子どもを「良くしよう、伸ばそう」という共通の思いがあるのだが、子どもや保護者に善かれと思って助言をしても、結果として保護者との間で意志の疎通がうまくいかなくなる場合もある。さらには、それが発端となり、保護者が学校に不信感を抱くことにつながることもある。

2　実践研究の考え方

学校だより、学年・学級通信などを通して、学校や学年の教育方針や考え方、学習の様子や行事の報告、学校からの要望等、学校は様々な情報を家庭に発信している。

しかし、これらは学校主体のもので、ともすれば学校からの一方的な情報になりがちである。子どもたちの教育は単に学校だけでなく、学校や家庭がそれぞれ適切に役割を分担しつつ、相互に連携していくことが望ましい。そのためには、相互に理解し合うこと、情報を共有することが大切である。

従って、意思疎通を図るためには、一方的に学校からの情報を提供するだけでなく、保護者からの意見に耳を傾け、その要望や意見を聴き、できる限りそれらに応えていかなくてはならないであろう。

そこで、今までは「学校からの情報を単に提供する」だけであった通信を、「家庭と情報を共有し、連携･協力して子どもを育てていく」手立てとして活用し、双方向の意志の疎通を図りながら、教師と保護者が互いの思いを深めあえるようにしていくことが大切であると考える。

3　研究と検証の計画

（1）研究計画

月２回定期的に発行している「児童生徒指導だより」の中に、子育てへの思いや家庭・地域での子どもの様子、学校への要望等、子どもを共に育てるパートナーとしての「保護者の生の声」を聞くことの出来るコーナーを設ける。そして、感想・意見等を記述し提出してもらい、翌号でそれを紹介する。また、保護者の感想・意見に対して、学校側の思いや回答のコメントを添え再発信することで、双方向の思いのやりとりが実現できる。この学校と家庭とのキャッチボールを重ねることで、互いの信頼関係が深まっていくものと考える。

（2）検証計画

教師と保護者の子どもに対する思いが交流できる「児童生徒指導だより」発行の実践を行い、その内容（保護者への投げかけ）、保護者からの感想・意見数、再発信の内容等を評価することにより、望ましい通信のあり方を探る。

4　研究の展開

（1）保護者の生の声を聞くコーナーの設定

保護者の声を聞くコーナーは、「児童生徒指導だより」の裏面に設けることにし、次の２点に留意し、表１のように保護者に投げかけた。

・学校と保護者との双方向での意見・情報交換を目指すこと。
・要望だけでなく、子どもを共に育てるパートナーとしての意見を求めること。

表１　保護者に月別に投げかけた内容

	学校からの投げかけ	再発信
９月	いつも児童生徒指導だより「〇〇っ子」をご愛読いただきありがとうございます。これまでは一方的に情報を提供して参りましたが、これからは保護者の皆様のご意見をお聞かせいただければと思います。 「父さん･お母さんの運動会の思い出」についてお尋ねします。どんなことでもかまいませんので、自由に記述して下さい。	
10 月	学校では元気にあいさつを交わしている子ども達。地域やご家庭ではいかがでしょうか。学校の外の子ども達の様子をお教え下さい。 図１参照	図３参照
11 月上旬	今回は「不審者情報」についてお尋ねします。「不審者情報は役にたちましたか？ 」ア～ウの中から最も近いものに〇をつけて下さい。また、不審者情報の提供の仕方についてのご意見やどんな情報が欲しいかなど、どんなことでもかまいませんので、自由に記述してください。よろしくお願い致します。 図２参照	図４参照
11 月下旬	お父さん、お母さんも子どもの頃に夢中になって読んだ本があることと思います。本の楽しさ、本のよさを子どもに味わわせるためにも今年の秋の夜長のひとときは、鈴虫の声をＢＧＭにまず一冊から初めてみてはいかがでしょう。お勧めの本を紹介して下さい。	図５参照

（2）保護者の声を集める工夫

保護者にとって、学校での子どもの様子や取組の実態は、間接的にしか分からないものである。そこで、保護者にとって分かりやすく判断しやすい内容を尋ねる方が返信しやすいのではないかと考え、保護者自身の考え・思いにテーマを絞り尋ねるようにした。《図1》

また、３回目からは、自由記述欄の前に選択肢の質問を入れ、できるだけ多くの保護者の声が集まるように工夫した。《図2》

朝のあいさつ、元気の源！ ○○小あいさつ強化月間

あいさつは、人間関係を深めていく大切なものです。自分と相手に、「心と心の架け橋」をつくる入り口が『あいさつ』です。「挨（あい）」には、”開く、近づき合う”、「拶（さつ）」には、”迫る、相手のいいものを引き出す”という意味があります。つまり、『自分の心を開き、相手に近づいて、相手の心に迫る』ということになります。あいさつは、自分の気持ちを素直に表す、一番簡単で最高の自己表現といえるのではないでしょか。ご家庭においても、あいさつの大切さについてお話下さい。また、地域で子どもを見かけたらどんどんあいつをして下さい。どうぞよろしくお願いします。

ご意見をお聞かせください

今週･来週と６年生による「あいさつ運動」実施中です。学校で元気にあいさつを交わしている〇〇っ子達。地域やご家庭ではいかでしょうか。学校の外の〇〇っ子達の様子をお教え下さい。

----------切　り　取　り　線----------

図１　10月号で投げかけた内容

ご意見をお聞かせください

いつも児童生徒指導だより「〇〇っ子」をご愛読いただきありがとうございます。今回は「不審者情報」についてお尋ねします。「不審者情報は役にたちましたか？」ア～ウの中から最も近いものに〇をつけて下さい。また、不審者情報の提供の仕方についてのご意見やどんな情報が欲しいかなど、どんなことでもかまいませんので、自由に記述して下さい。よろしくお願い致します。

ア　とても参考になった　　イ　少し参考になった　　ウ　あまり参考にならなかった。

図２　11月上旬号で投げかけた内容

（3）保護者の声の紹介

保護者から集まった意見や感想は、図３，図４，図５のような形で次号の裏面に原文のまま可能な限り多数掲載した。

○○っ親の声･声･声

たくさんのご感想をいただきました。本当にありがとうございます。○○っ親、最高！

○どんなに頑張ってもなれなかった学級対抗リレーの選手。やっと６年生で選ばれ！！（Ｂチームでしたが…）一生懸命走った事を思い出します。一生懸命！！だからこそ子どもたちが一生懸命頑張っている姿を見るとすぐに胸が熱くなり、必死に応援してしまいます。（そして、声が大きすぎ！！といつも子どもに怒られます。恥ずかしい様です。）

◇一生懸命！だから、美しい。私も最近涙もろくなりました。

図３　１０月号での再発信

○○っ親の声・声・声

お忙しい中、たくさんのご意見・ご感想をいただきました。ありがとうございました。

○この間、登校班で朝集まる時に、誰一人「おはよう！」のあいさつをしている様子がありませんでした。（自分の子も含めて）子どもに「きちんとあいさつするんだよ。」と言ったら、「みんな言わないよ。」と言っていました。みんながあいさつしなくても、自分からあいさつ出来る子になってもらいたいです。

◇「しつけ三原則」（森　伸三）

１．朝、あいさつをする
２．呼ばれたら、「はい」とはっきり返事をする
３．はきものを脱いだらそろえ、席を立ったらイスを入れる

この3つができれば、あとの大抵のしつけは大丈夫。というものです

図４　１１月上旬号での再発信

○○っ親の声・声・声

お忙しい中、今回もたくさんのご意見・ご感想をいただきました。ありがとうございました。貴重なご意見を参考にし、これからも情報提供をしていきたいと思います。

○とても参考になっております。こうしてみると不審者情報を頻繁に提供していただいて、学校に負担がかかっていないかと逆に恐縮です。注意を促す情報としましてはとてもありがたいことですので、是非ともこのまま情報をいただけたらと思います。内容もこのままで結構です。いつも情報をありがとうございます。子どもにもこれを元に注意を呼びかけております。

◇負担などありません。ご愛読ありがとうございます。

○もし、不審者に会って、学校に連絡するときはどのようにしたらいいのですか、担当の先生等がいるのですか？

◇学校には生徒指導担当の教諭がおります。担任でも、校長、教頭でもかまいません。できるだけ素早い連絡をお願いします。また、学校への連絡の前に次の犯罪を防ぐためにも、また同じような被害を防ぐためにも、迅速な110番通報をお願いします。

図５　１１月下旬号での再発信

（4）学校からの再発信（図3，4，5の太字部分）

学校と保護者との意見交流をねらいとして、学校のとらえ方や対応の仕方などについて簡単なコメント形式で再発信した。問われたことに対して回答することは当たり前のことであり、保護者からの意見に対して学校がどう対応するかを示すことはとても大切なことである。学校の誠実な姿勢を家庭に伝えることによって、保護者は学校の実情を理解・納得し、それが信頼を得ることにつながると思われる。

５　研究の結果と考察

（1）研究の結果

①　教師と保護者の思いが交流できる「児童生徒指導だより」発行の実践を行い、ＰＴＡ会員４６５人の中から１回目は３７名、２回目は５１名、３回目は１８４名、４回目は１６２名の保護者から返信を得ることができた。最初、人数は少なかったものの、多くの内容を記述してくれる保護者もおり、反響があったと考えられる。また、回を重ねるごとに人数が増えており、このコーナーが徐々に受け入れられていることが伺える。３回目に実施

した「お聞かせ下さい」では、記述なしのものも多かったが、返信が多数寄せられたことから、記述式だけでなく選択肢を取り入れた投げかけも答えやすいという観点からは大切であると考えられる。

②「いつも児童生徒指導だよりを愛読させていただいております。」「今後とも、きめ細かい情報提供をお願いいたします。」等、保護者から多くの返信が寄せられたことから、保護者に、感想や意見を学校に伝える一つの方法を知らせることができたとともに、保護者の声を聞くことで、学校への思いや考えを出しやすい雰囲気づくりができたと考えられる。

③　保護者の声をフィードバックしたり、意見や質問に対する学校の考えを再発信したりすることで、学校の積極的姿勢を保護者に示すことができたと考えられる。また、保護者の声を取り上げたことで情報の流れが双方向になり、同時に回を重ねるにつれ保護者の声が自然な形で学校に届けられるようになったことは、保護者と学校との距離が縮まってきた現れであるといえる。

④　学校公開や授業参観の際の「不審者情報が役に立った。」とか「あの本を読んでみた。」等の保護者の声から、保護者間でも情報の交換や共有がなされ、仲間意識が強まったと思われる。また、学校側も保護者の思いや考えを知ることができたことから、教職員間に家庭と共に子どもたちを育てていく意識が強まったと思われる。

（2）考察

本研究では、保護者との連携を深める学校の情報提供の一つの取組として、児童生徒指導だよりを用いての双方向の思いの共有の方策を取り上げた。

保護者の声に耳をかたむけ、学校の思いを再発信することは、保護者に学校の取組を理解・納得してもらう手段として有効であったと考える。そしてなにより、互いの思いの交流を通して、保護者の心の育ちを後押しすることができ、共に子どもたちの成長を見守ることができたことは大きな一歩であった。

これらのことから、本研究は、学校と保護者とが信頼関係を深めるうえで、有効な一方策であったと考える。しかし、紙面上での意見の交流には限界があり、さらなる情報提供の方法を考えていかなければならない。また、内容によっては、保護者の意見の取り上げ方について十分配慮することもこれからは大切になってくるであろう。

Ⅲ　実践２

１　実態

三年間持ち上げてきた学年なので、保護者には指導方針等を理解していただいている。しかし、授業参観や懇談会に参加する保護者はやや固定化していることを考えると「互いの思いを交流する」段階までには届いていないのが現状である。

また、保護者にとって信頼される学校とはどんなものか、何を学校に求めているのか、どんな学年通信を期待しているのか等を率直に聞き出せないのも現実である。保護者は学校評価での自由記述欄や懇談会の話合いの中で、思いを話すチャンスはあるが活発な意見交換はなかなか難しい。

２　実践研究の考え方

学年通信を通して、「通信の内容」「家庭学習」「進路」等について生徒・保護者がどんな考え方を抱いているのかをアンケートや簡単な記述形式で探り、要望していることに対して参考

になる様なアドバイスや勇気づけを通信を通して返信する。それを繰り返すことで「教師・生徒・保護者の思いが交流できる」のではないかと考えた。

学年通信から生徒・保護者の考え方を引き出す手立てとして「効果的な家庭学習の仕方」「時間を有効に使う方法」「受験の心構え」「進路状況」等に関して具体的に通信の中に盛り込み、生徒・保護者が抱えている悩みや要望等を探るコーナーを設ける。そして、実態を把握しアドバイスや参考となる例を返信していくことで互いの思いが交流できれば、進路面談や受験を迎えるにあたり少しでも支援できるのではないかと考えた。また、お知らせする内容も一方的なものではなく、生徒・保護者の目線から常に考えた上で発行することが必要である。

生徒が変容するための要因は、友達の頑張りや保護者が子供と話し合う時間を多くしたり、誉めたり、認めたりすることである。友達ができて自分ができないことはないと思える内容を掲載したり、保護者が通信に関心を向ける内容を記載することは必要である。また、全員で受験に向かう姿勢が感じられる通信を発行していけばお互いの思いが共有でき、学習意欲を引き出すことにもなる。

保護者は子供が「本気で学習しているのか。」という点についてとても心配である。さらに二学期からは目標とする「進路先」に向けて「今のままで受かるのだろうか。」「どんな勉強をしていけばよいのか。」等の不安な気持ちが高まってくる。そこで、生徒・保護者の悩み等を通信を通して探り、生徒･保護者の知りたい情報を伝えることで、教師・生徒・保護者 それぞれの思いが交流できるものと考えた。

３　研究計画及び検証計画

	研　究　計　画	検　証　計　画
４月 5月~7月 9月~11月	○三者面談で生徒･保護者の考え方や悩みを把握する。 ○上記を引き出す手立て・返信の仕方・評価等を検討する。 ○学年通信にアンケートや保護者からの記述欄を盛り込み、その結果をグラフに表し傾向を知らせる。要望に対してはアドバイスや参考例を返信する。	アンケート結果や保護者の記述内容、三者面談における声などについて分析することにより、教師と保護者それぞれの思いが交流できたかを評価し、望ましい通信の在り方を探る。

４　研究の展開

下記のアンケートを通信に入れ、生徒や保護者の思いについてどんな傾向なのか　　探ってみた。「学年通信がより効果的に活用される様にするための資料にします。アンケートにご協力下さい。」

生徒対象　　あてはまるものを○で囲んで下さい。
Q1 学年通信の中で興味・関心が高いのはどんな内容ですか?
（行事の内容・友達の活躍・進路の内容・今後の予定・その他）
Q2 学年通信の進路関係で特に載せてほしいことは何ですか?
○受験に対する悩みやｱﾄﾞﾊﾞｲｽ
○家庭学習の仕方
○進路状況
○受験までの予定

アンケート１（９／１５記載）

保護者対象　　あてはまるものを○で囲んで下さい。
Q1 学年通信の中で興味・関心が高いのはどんな内容ですか?
（行事の内容・友達の活躍・進路の内容・今後の予定・その他）
Q2 これからの学年通信に載せてほしいことは何ですか?
○ﾋﾟﾘﾋﾟﾘしている時の子供との接し方
○返された実力テストの活用の仕方
○生活ﾘｽﾞﾑをうまく変える方法
○家庭学習の充実の仕方
○子供をうまくのせる方法

アンケート２（９／１５記載）

４月の三者面談の時に話し合われた内容の中から生徒・保護者が抱いている不安や悩みなどを参考に作り、複数回答でお願いした。回収したデータをグラフに表し、学年懇談会（１０／

７）で話し合う資料とした。

アンケート１・２のＱ１では通信の中で興味・関心が高い内容をたずねた。双方とも「進路の内容」が多いと予想したが、下記のグラフの様に「行事の内容」や「今後の予定」にも高い興味・関心を寄せていることがわかった。「行事の内容」では中学校最高学年のいろいろな行事に対して子供がどんな活動をしているのかを知りたい表れと考える。「今後の予定」では３学期に受験を迎えるので、細かく予定表を記載してほしい表れと考える。

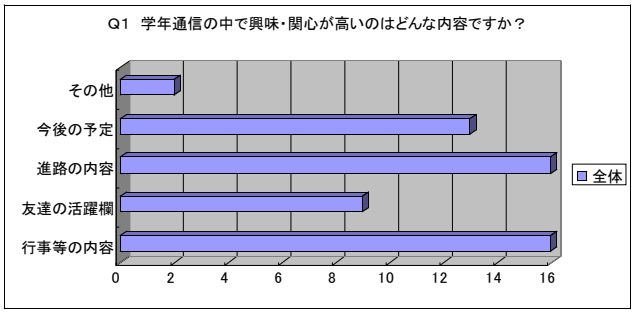


図１　生徒データ

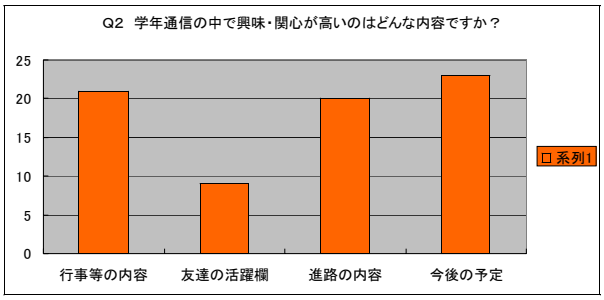


図２　保護者データ

アンケート１・２のＱ２では進路関係に絞った結果、「家庭学習の仕方」「進路状況」が多かった。「進路状況」「受験までの予定」においては本校進路指導室に掲示し、生徒や来校した保護者が確認できるように配慮した。

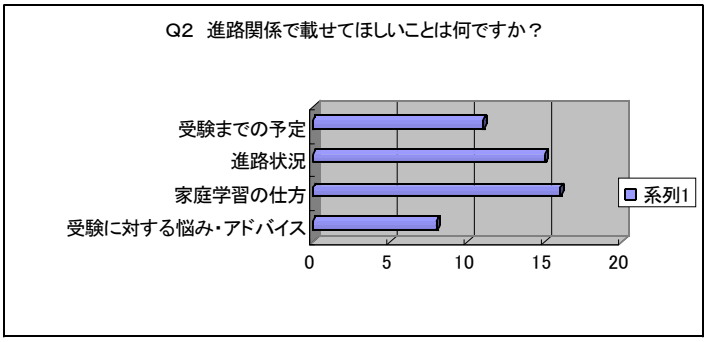


図３　生徒データ

保護者対象Ｑ２では５つの項目に絞って探ってみた。その結果、生徒データ同様に「家庭学習の充実の仕方」が多かった。これらのことから今後の通信には家庭学習を充実させるためにヒントになる様な内容を記載しようと考えた。懇談会で、この資料で話し合った保護者の反応は「部活動が終了してから、家庭学習に取り組む時間が変わらない」「効果的に学習するにはどうしたらよいか」などが話題に出たので早い段階で返信しようと考えた。

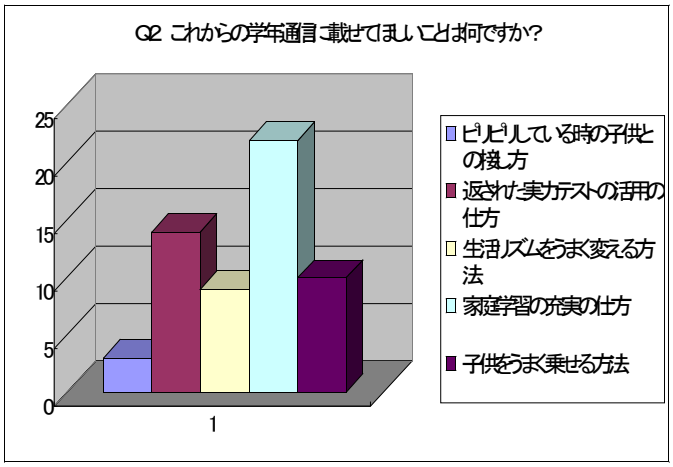
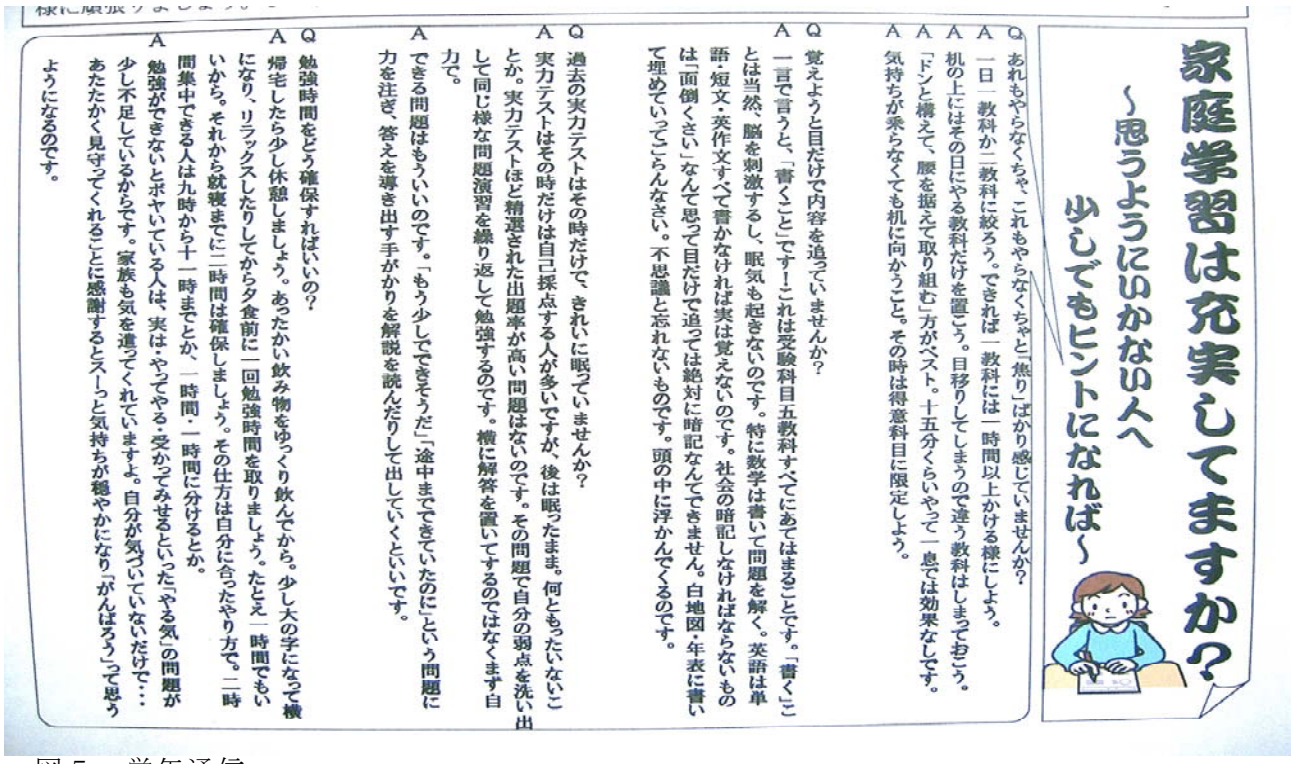


図４　保護者データ

「家庭学習の充実の仕方」に対して次ページのような内容を次の通信で示した。



家庭学習は充実してますか？

～思うようにいかない人へ 少しでもヒントになれば～

Q あれもやらなくちゃ、これもやらなくちゃと「焦り」ばかり感じていませんか？

A 一日一教科か二教科に絞ろう。できれば一教科には一時間以上かける様にしよう。

A 机の上にはその日にやる教科だけを置こう。目移りしてしまうので違う教科はしまっておこう。

A 「ドン」と構えて、腰を据えて取り組む」方がベスト。十五分くらいやって一息では効果なしです。

A 気持ちが乗らなくても机に向かうこと。その時は得意科目に限定しよう。

Q 覚えようと目だけで内容を追っていませんか？

A 一言で言うと、「書く」と「ですー」これは受験科目五教科すべてにあてはまることです。「書く」ことは当然、脳を刺激するし、眠気も起きないのです。特に数学は書いて問題を解く。英語は単語・短文・英作文すべて書かなければ実は覚えないのです。社会の暗記しなければならないものは「面倒くさい」なんて思って目だけで追っては絶対に暗記なんてできません。白地図・年表に書いて埋めていって」らんなさい。不思議と忘れないものです。頭の中に浮かんでくるのです。

Q 過去の実力テストはその時だけで、きれいに眠っていませんか？

A 実力テストはその時だけは自己採点する人が多いですが、後は眠ったまま。何ともったいないことか。実力テストほど精選された出題率が高い問題はないのです。その問題で自分の弱点を洗い出して同じ様な問題演習を繰り返して勉強するのです。横に解答を置いてするのではなくまず自力で。

A できる問題はもういいのです。「もう少しでできそうだ」「途中までできていたのに」という問題に力を注ぎ、答えを導き出す手がかりを解説を読んだりして出していくといいです。

Q 勉強時間をどう確保すればいいの？

A 帰宅したら少し休憩しましょう。あったかい飲み物をゆっくり飲んでから。少し大の字になって横になり、リラックスしたりしてから夕食前に一回勉強時間を取りましょう。たとえ一時間でもいいから。それから就寝までに二時間は確保しましょう。その仕方は自分に合ったやり方で。二時間集中できる人は九時から十一時までとか、一時間・一時間に分けるとか。

A 勉強ができないとボヤいている人は、実は・やってやる・受かってみせるといった「やる気」の問題が少し不足しているからです。家族も気を遣ってくれていますよ。自分が気づいていないだけで・・・あたたかく見守ってくれることに感謝するとスーっと気持ちが穏やかになり「がんばろう」って思うようになるのです。

図５　学年通信

Ｑ＆Ａ方式で精神面と学習方法を例に挙げて記載した。発行後、生徒からは「結構、目だけで追っていた時間が多かった気がする」「過去のテスト問題を駆使すると効果的なのか」「精神面が大きく影響する」といった声を聞いた。保護者からは「机に向かうことの大切さ」「夕食前に少しでも学習時間を取るパターンはよい」「家族に感謝する心は最も大切」などの声を聞いた。このことから、親子で参考となった様子が伺える。

> 新たに「不安な気持ち・悩み」「聞きたいこと」等ありましたら遠慮なく下記に書いていただきたいと思います。
>
> 3年 組 氏名　○○　○○
>
> いつもお世話になっております。とにかく心配で、心配で心配です。大丈夫という保証はないし・・・宜しくお願いします。

三者談後の保護者の悩み等を探る内容を記載した（１２／７）結果、左記のような悩みが届いた。「心配」という言葉が３回連続で書かれていることからも相当不安な気持ちが読み取れる。そこで、受験に向けて大切な期間となる冬季休業中の生徒の学習を支援する手立てとして４回の学習会を計画した。家庭で思うように能率が上がらない生徒に図書室を開放して集中して学習できるようにしたこと、個別指導も少ない時間ではあるが効果的に行うことを通信でお知らせした。

> 新たに「不安な気持ち・悩み」「聞きたいこと」等ありましたら遠慮なく下記に書いていただきたいと思います。
>
> 3年 組 氏名　○○　○○
>
> お世話になっております。数学に不安があり、高校でもやっていけるか？学校の先生に聞くのが一番と言っているのですが。時間ばかり過ぎてしまいます。何か対処できたら。

また、別の保護者からは子どもが数学に不安があり心配しているが、先生に聞けないでいることについて届いた。そこで、学年集会において３学期に向けて各教科の先生に質問する態勢を高めていくことを生徒に呼びかけた。

また、次の学年通信で「先生に聞くメリット」と題して記載することで生徒が対応しやすく

なるように配慮した。

5　研究の結果と考察

(1)　研究の結果

①　通信の中にアンケートや記述形式を記載した結果、４９名全員の生徒から回収できた。通信をすべての生徒・保護者が読んだ現れである。また、アンケートは無回答がなかったことは関心が高かったものと考えられる。

②　回収した資料をもとにデータを整理して項目ごとにグラフにした結果、「家庭学習の充実の仕方」に対して高い関心を示した。次の通信で、「家庭学習の仕方」に絞ってＱ＆Ａ方式で示した結果、生徒や保護者から「大変参考になった」「ありがたい」等の声を聞くことができた。

③　生徒・保護者の関心度の高いもの（進路情報・今後の予定・行事予定・家庭学習の充実の仕方等）は何かをグラフにして懇談会を開いた結果、保護者から「子供と親の考え方は意外に似ている。」「中学最後の年だから行事にはしっかり出なくちゃね。」「返された実力テストをどう活用していけばよいか。」など活発な意見交換が見られた。

④　三者面談後に新たな悩みに対して学年通信を通して探った結果、「心配で心配で。大丈夫という保証はないし・・・。」「誰もが不安な時期とは思うが、健全な気持ちで入試が迎えられたらと思ってます。」など、受験先は決まったが、保護者の気持ちは落ち着かない様子がわかった。そこで、学年としての対応として学習会の実施や質問を受ける体制作りを行うことができた。

(2)　考察

本研究における実践を通して、通信は教師側の一方的な考えやお願いをするのではなく、いつも生徒・保護者が何を求めているのかを把握して、発行することが大切であると感じた。また、発行後どんな反響があるのかも探っておくと次回につながること、繰り返していくことでお互いの思いが交流できる通信になっていくことがわかった。

また、それぞれの不安な気持ちや悩みについて通信を通して生徒間や保護者間で「共有」できることはお互いに大きな勇気づけになることもわかった。

今後の課題としては、自由記述欄に書かれるケースが少なかったという点があげられる。数少ない貴重な意見を返信することで、「同じ様な気持ちだなぁ。」「書いてみようかなぁ。」と保護者の方々の共感を呼べる通信内容を工夫し、次につなげていきたい。

Ⅳ　成果と課題

1　成果

(1)　「児童生徒指導だより」「学年通信」を通して学校・教師側からの思いと保護者からの思いを交流したことで、貴重な意見が多数寄せられたり、学年懇談会等での活発な意見交換が見られたことは双方の信頼関係作りに大きな効果があったと思われる。

(2)　「通信」を通して保護者からの貴重な意見を記載したり、アドバイスを入れて返信したりしたことで、保護者の共感や悩みを共有できたことは効果的であった。

2　課題

(1)　保護者の貴重な意見を取り上げる際に、どんな意図で書かれたのか、内容によっては記載できない時も出てくるので慎重に評価して返信していくことが必要である。

(2)　保護者同士が共感できる内容にするため、子育ての際に成功した事例や勇気づけとなる様な投げかけを募ったりしていくことで「通信」の幅を広げる必要がある。